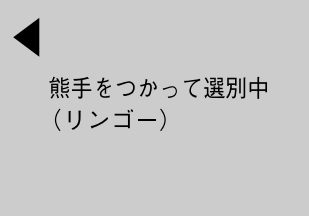


② 綱をあむ

木の枝などを使って、「エイヤー」という掛け声をかけながらワラの束を編みこんで綱をつくります。これをリンゴーでは「エイヤー作業」と呼んでいました。かけ声にあわせて同じ呼吸で編むことで、均一な綱ができあがります。ドウジ（胴体）は18間（1間＝1.8m）×8本と5間×1本、テンナ（手綱）は7間×4本と6間×3本、カヌチ（頭巻）に用いる化粧綱を編みあげていきます。



手作業で選別、手は動かして、ユンタクさ〜（リンゴー）



① ワラの選別

綱の材料となるワラは、現在も稲作の行われている金武町から購入しています。そのワラを、リンゴー（上・雄綱）、ウフカー（下・雌綱）の2カ所に運び、それぞれで綱づくりを開始します。まずはワラの束からよぶんな葉などを取り除き、適当な束をつくっていきます。ワラの芯の部分の水にひたしてやわらかくしてから、編みこんでいくのがポイントのようです。リンゴーとウフカーは道を境に区域わけしています（以前は門中わけ）。

スタート

町史だより 西原の年中行事 ～その③～

我謝大綱ひき



太陽の光輝く夏には、海や山をはじめ、各地で様々なイベントやまつりが開かれています。みなさんも、毎週のように出かけられているのでは？

町内の夏まつりといえば、やっぱり綱ひき！ということで、今回は我謝綱ひきを紹介します。

我謝の綱ひきは、毎年旧暦6月25日のウファチの日に行われますが、現在では近い日曜日に催されています。今年は7月31日に行われました。その日は朝早くから綱づくりが行われます。

「エイヤー、エイヤー、エイヤー」のかけ声で。（リンゴー）



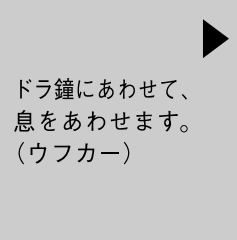
大きなクワディサーの木の下で〜（ウフカー）

③ 綱をつなげる

ここからが綱づくりの本番です。リンゴー、ウフカーともに、編んだ綱（3本づつ）をさらに編みこんで太い一本の綱に仕上げていきます。全員の力加減が一定でないと、綱にたるみがでてきます。美しく強い綱に仕上げするため、ドラ鐘をたたいて全員の息をあわせていきます。綱の胴体となる太く編まれた綱は、所々を細縄でしっかり結びつけ（ヤマトウムスビという結び方）ます。



綱をまわしてしめながら編み込みます。（リンゴー）



ドラ鐘にあわせて、息をあわせませ。（ウフカー）



カニチの化粧綱（リンゴー）



ヤマトウムスビ（リンゴー）

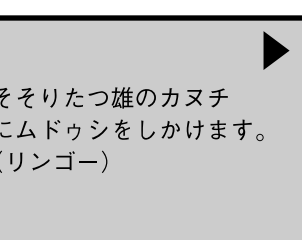
★以前は前日に綱をつくっていましたが、綱が切られることもあり、当日につくようになったようです。



いざ！勝負

⑥ 雄と雌の綱を結合

雌綱にうまく雄の頭をさしこみ、カヌチ棒をいれたら綱ひき開始！綱は二回ひかれますが、一回目の綱ひきが勝負どころのようで、毎年のようにリンゴーが勝つのだそうです。ちなみに、負けたのはただの一度だとか。



そそりたつ雄のカヌチにムドゥシをしかけます。（リンゴー）



ムドゥシには一番クビグチ、二番クビグチと2段階あります。（ウフカー）

⑧ 女性たちのいろいろ会

翌日は、公民館で女性たちが集い、いろいろ会（ハーメーユレー）が行われます。食事をしたり、綱ひき歌を歌い、踊って楽しめます。我謝の女性はほんとうにパワフルです！



⑦ 勝利のガーエー

一度目はリンゴーが、二度目はウフカーが勝利し、それぞれ男たちが勝利のガーエーを行います。旗頭を持つ青年たちの気迫と、六尺棒で躍動するマチガイの男たちの姿、女性たちの歌声がまざり、まさにガージャンチュ（我謝人）の熱気で会場は盛り上がりまます。やがて、興奮がおさまるころ、終了のアナウンスが流れ、引き取りにきたトラックに綱がのせられます。

青年たちの力と技のみせどころ



南風原宮城へ運ばれる綱は、来年使用されるそうです。



ボンボン（太鼓）をならし、歌う女性たち（リンゴー）



雄綱のシタクは謝名之大主（リンゴー）



いよいよ両綱が結合されます。



むかえうつ雌綱は久志若按司がのっています。（ウフカー）

完成！

約8時間をかけ、それぞれの綱が完成しました。これぞ我謝綱！

⑤ 道ジュネー

午後5時半に区長さんたちのウファチの祈りがすむと、リンゴーはマカーガー（井戸）から、ウフカーは字与那城との境にあるウフダラモ（広場）から、綱ひきが行われる我謝児童公園前までの道ジュネーが始まります。青年たちは旗頭をあげ、六尺棒もって氣勢をあげます。そして女性たちは太鼓を手に、綱ひき歌をうたいながら、男たちを盛り上げます。

いさましい雄綱（リンゴー）

雌綱も美しい（ウフカー）

